

## 兼任教員情報公開用（最近5年間の主な業績等）

2025年

氏名	葛野 尋之	担当科目	刑事法演習Ⅰ、問題解決実践
学 位			
2003年9月	博士（法学）		
主 な 学 歴			
年 月	事 項		
1985年3月 1990年3月	一橋大学法学部卒業 一橋大学法学研究科博士後期課程単位取得退学		
主 な 職 歴・経 歴			
年 月	事 項		
2009年4月 2016年4月 2016年4月 2016年6月 2018年4月 2020年4月 2022年4月	一橋大学 法学研究科 教授（～2018年3月） 一橋大学 法学研究科 日本ヨーロッパ法政研究教育センター センター長（～2016年5月） 一橋大学 法学研究科 研究科長（～2018年3月） 一橋大学 法学研究科 グローバル・ロー研究センター センター長（～2018年3月） 一橋大学 法学研究科 グローバル・ロー研究センター 教授（～2020年3月） 一橋大学 法学研究科 グローバル・ガバナンス研究センター 教授（～2022年3月） 青山学院大学 法学部 教授		
最近5年間の主な業績等			
年 月	事 項		
2025年2月 2024年1月 2022年2月 2021年11月  2021年5月 2020年2月	<p><b>【著書】</b></p> <p>『弁護人の援助を受ける権利の現代的展開』葛野尋之（日本評論）1-395頁</p> <p>『再審制度ってなんだ-袴田事件に学ぶ』村山浩昭、葛野尋之（共編著者）（岩波書店）1-159頁</p> <p>『刑事訴訟における公判中心主義-日本と中国』葛野尋之、王雲海（共編著者）（成文堂）1-234頁</p> <p>『裁判員裁判の現在-その10年の成果と課題』一橋大学刑事法部門編、葛野尋之編集代表（編集）（現代人文社）1-159頁</p> <p>『判例学習・刑事訴訟法（第3版）』葛野 尋之（共編著者）（法律文化社）1-393頁</p> <p>『少年法適用年齢引下げ・総批判』葛野 尋之（共編著者）（現代人文社）1-333頁</p>		
2024年11月 2024年10月  2024年6月 2024年5月  2024年5月 2024年3月 2024年3月 2023年11月	<p><b>【論文】</b></p> <p>「少年事件のいわゆる再審—最決昭58・9・5（柏少女殺し事件）」（少年法判例百選（第2版））188-191頁</p> <p>「任意同行中の被疑者に弁護人等からの電話への不応答を求める警察官の措置の適法性—札幌高判令6・6・28」（新・判例解説Watch25号）191-194頁</p> <p>「保釈条件の不明確性と過度広汎性」（渡辺修先生古稀祝賀論文集—刑事司法の理論と実践）163-180頁</p> <p>「取調べの可視化・弁護人立会と起訴基準—起訴基準引下げの現実的契機」（取調べの可視化—その理論と実践）137-151頁</p> <p>「準現行犯逮捕—最決平8・1・29」（刑事訴訟法判例百選第（11版））28-29頁</p> <p>「逮捕状の執行準備と被疑者の弁護人の援助を受ける権利」（青山法学論集）65巻4号1-48頁</p> <p>「公判中心主義と起訴基準」（刑事手続における検察の権限—日本と中国）111-124頁</p> <p>「少年司法における少年の参加・再訪」（服部朗ほか編『融合分野としての少年法』）222-248頁</p>		

2023年9月	「刑事弁護の拡大と高度化-その現状と改革課題」(青山法学論集) 65巻2号1-29頁
2023年7月	「刑事弁護分野の回顧と展望」(刑法雑誌) 62巻3号413-428頁
2022年11月	「弁解録取と弁護人の援助を受ける権利」(一橋法学) 21巻3号73-94頁
2022年11月	「任意同行された被疑者と弁護人等との接見機会の保障」(土井政和先生・福島至先生古稀祝賀論文集-刑事司法と社会的援助の交錯) 327-345頁
2022年11月	「再審請求中の死刑執行と再審請求手続」(大谷實=井田良=松原芳博=福島至=渡邊一弘=本庄武=葛野尋之=椎橋隆幸『死刑制度論のいま』) 109-137頁
2022年3月	「再審請求中の死刑執行をめぐる法的問題」(一橋法学) 21巻1号1-36頁
2021年12月	「被逮捕者と弁護人の援助を受ける権利」(寺崎嘉博先生古稀祝賀論文集(上)) 195-222頁
2021年11月	「刑事手続における通信秘密の保護-弁護人の効果的援助の保障と正確な事実認定」(一橋法学) 20巻3号1-35頁
2021年10月	「辩护人接見と電子機器の使用-裁判例の到達点と限界」(季刊刑事弁護) 108号121-131頁
2021年8月	「保釈中の被告人の逃亡防止とGPS電子監視」(犯罪と刑罰) 30号29-67頁
2021年7月	「保釈とGPS電子監視」(季刊刑事弁護) 106号17-24頁
2021年7月	「任意処分 of 違法と違法収集証拠排除法則」(後藤昭編集代表『裁判員時代の刑事証拠法』) 331-350頁
2021年2月	「再審請求中の死刑執行と再審請求手続」(判例時報) 2465・2466号134-142頁
2020年12月	「被疑者の黙秘権と弁護人の効果的援助を受ける権利」(石田倫識他編『大出良知・高田昭正・川崎英明・白取祐司先生古稀祝賀論文集』) 234-260頁
2020年4月	「誤判救済と再審制度-イギリス誤判救済制度からの示唆」(判例時報) 2434号153-160頁
	<b>【講演・口頭発表等】</b>
2023年5月	ワークショップ「再審と証拠開示」(日本刑法学会第101回大会)
2022年5月	『『刑事弁護』分野の回顧と展望』 分科会2「刑事訴訟法の回顧と展望」(日本刑法学会第100回大会)
2019年10月	取調べ立会いが刑事司法を変える-弁護人の援助を受ける権利の確立を (日本弁護士連合会第62回人権擁護大会シンポジウム・第1分科会)
2019年3月	日本の少年法と適用年齢引下げ問題-少年法の理念と構造から考える (国立台湾大学法学院講演会)
2018年5月	ワークショップ・オーガナイザー「被疑者国選弁護制度の拡充と被疑者弁護の課題」 (日本刑法学会第96回大会)
2016年5月	ワークショップ「起訴猶予と再犯防止措置」 (日本刑法学会第94回大会)
	<b>【所属学会】</b> 日本刑法学会、法と心理学会、日本犯罪社会学会、日本法社会学会
(参考: 外部リンク) プロフィールURL	